

レトロ・レトロの体験フェスタ2013

with

レトロ・レトロの展覧会



主催 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

共催 滋賀県教育委員会



昔の火起こしを体験！

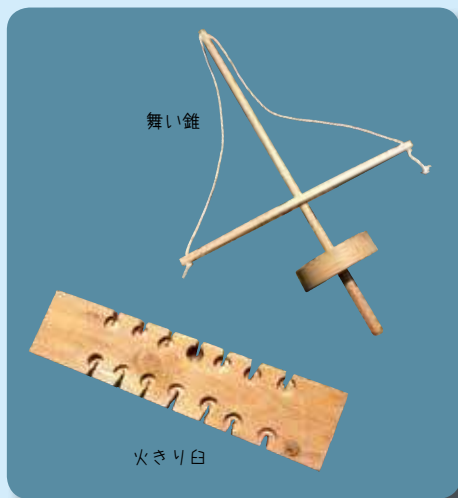
☆火起こしの道具

舞い錐と火きり臼を使います。

どちらか片方だけでは火はつけられません。

黒くなった穴はもう火が付いた穴だよ。

これはもうつかえないからほかの穴を使おう！



☆火起こしの極意

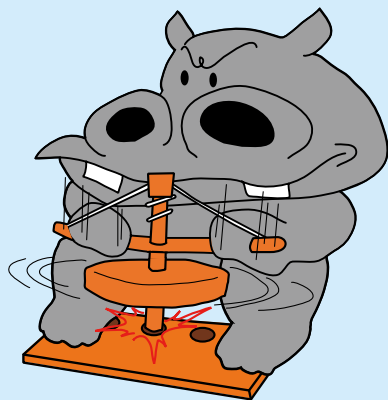
火きり臼を両足でしっかりと踏んで固定します。

火きり臼の穴に舞い錐の先をはめます。

紐の力を利用して舞い錐を回転させます。

火きり臼に穴をあけるつもりで何度も回転させましょう。

舞い錐の先が穴から外れないように！



火きり臼が削れてできた木の粉から煙が出てきたらもうひと頑張り。ポウッと炎があがるのではなく、小さな火種ができます。

この火種をもえやすいものに移して、昔の人は火を使っていたんだね。

「火」は、明かり・暖房・調理など、ヒトが生きていくためには欠かせないものです。

ここで紹介した「舞い錐」式の火起こしは、摩擦熱を利用した火起こし方法のひとつです。



夏休み体験学習セッション

ろう石で勾玉を作ろう

☆用意するもの

ろう石（やわらかい石） / のこぎりカッター / タッパー（水いれ） / ぞうきん
棒やすり（粗い紙やすりでも OK） / 紙やすり（粗いものと細かいもの）

1) おおまかな形を作ります

ろう石に勾玉の形を描いて、のこぎりカッターで余計なところを切り落とします。
後で削るので、大まかな部分だけで大丈夫。

* 大人の方へ：勾玉の穴は電動ドリルで開けると簡単です。



2) 棒やすりで形をつくります

ろう石を水につけながら、棒やすり（粗い紙やすり）で角をとっていきます。

水にぬらすとやわらかくなって、削った粉も飛び散りません。

ここでしっかり形を整えておこう！



作業はぞうきんの上でいいねいにやろう。 勾玉の先は折れやすいよ。
落とすと割れてしまうよ。 ていねいに削ろう。

3) 紙やすりで磨きます

粗い紙やすり→細かい紙やすりの順で、勾玉についた細かい傷をとっていきます。

必ず、紙やすりも勾玉も水にぬらしてから磨きましょう。



粗いやすりで大きな
傷をとっていくよ。



細かいやすりで
きれいに仕上げよう。



古代のアクセサリーの代表「勾玉」。その不思議な形はどのように生まれたのでしょうか？ さまざまな意見がありますが、そのなかには「お母さんのおなかの中にいる赤ちゃん」の形をモデルにしたという考えもあります。勾玉の形には、強い生命力へのあこがれや願いが込められているのかもしれない。



五寸釘で鍛冶体験

☆用意するもの

七輪 / バケツ / コンクリートブロック / ひばさみ
ライター / ドライヤー / かなとこ / ハンマー / 砥石 / ペンチ / 五寸釘
炭 / 皮手袋 / 軍手 / ゴーグル / 新聞紙



火を使う時は十分に注意をして、周りに燃えやすいものを置かないようにしましょう。

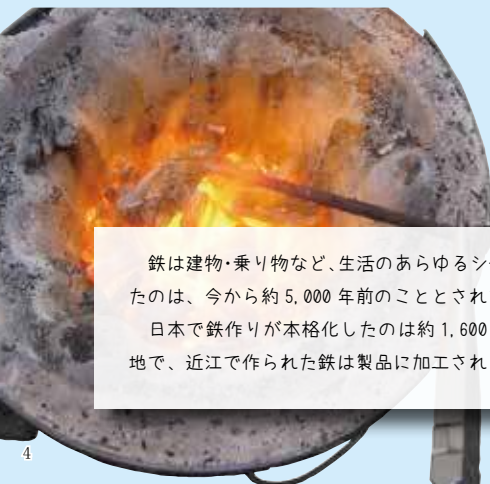
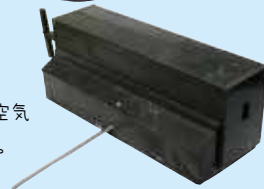
1) 鍛冶炉をつくる

七輪を炉のかわりに使って、炭をいれて火をつけます。

七輪の空気入れの前にコンクリートブロックの穴を合わせて置き、ドライヤーをはめて空気を送り込みます。
ドライヤーの風によって炭が激しく燃えて高熱になります。



昔はフイゴを使って炉に空気を送り込んでいました。



鉄は建物・乗り物など、生活のあらゆるシーンに欠かせないものですが、世界で初めて鉄の道具を使ったのは、今から約5,000年前のこととされています。

日本で鉄作りが本格化したのは約1,600年前（古墳時代）ですが、古代の近江は日本有数の鉄生産地で、近江で作られた鉄は製品に加工され、都の建設などに使われました。

2) ハンマーで釘を打つ

*皮手袋とゴーグルをつけて作業してください(火花が飛びます)。
熱で真っ赤になった釘をかなとこにのせてハンマーでたたきます。
10回くらい叩いたら、また火の中に入れます。
これを繰り返します。



ペンチで釘を持つときは、
しっかりと挟みましょう。
挟み方がゆるいと釘が飛ん
でけがのもとになります。



② 少しずつナイフの形になるようにたたきます。

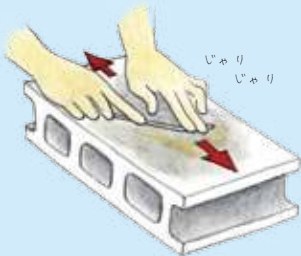


③ ナイフの刃になる側をたくさん
たたいて、薄くしあげます。

① まず釘の頭をたたきつぶし、ペンチで挟みやすくします。

3) 冷やして刃をとぐ

ナイフの形ができれば、赤く熱した後で一気にも水につけて冷やします。
こうすることで、固くなります(「焼入れ」といいます)。



コンクリートブロックで刃をとぎます。

*砥石(ブロック)とナイフの角度を保つように気を付けます。

鉄の地金がでてきたら、砥石を使って刃を鋭くします。

*とぐ時に出る泥のようなものは、捨てずに水を足してとぎます。



人や動物など、いきものにナイフを向けたり、振り回してはいけません。

人前でむやみにナイフをみせてはいけません。



夏休み体験学習せしめ

天然素材で染物体験

☆用意するもの

なべ/さらし/たらい/はさみ/染料の材料(ここではススキを使用)/染めたい布

(模様をつけるときは輪ゴムやビー玉を用意してね)

*媒染剤(作り方は右のページをみてね)

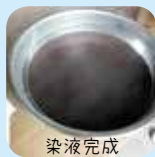


1) 染液をつくろう

生のススキをはさみなどで細かく刻み、なべに水と一緒にに入れて火にかけます。沸騰したら弱火にして20分くらい煮込みます。



液をさらしかがーぜでこします。



染液完成



2) 染める

染液を80℃くらいに温め、染める布を入れます。そのまま20分間、さいばしでゆっくりかき混ぜます。
*染める布を輪ゴムで縛ったりして模様をつけてみよう。



まぜないでおいておくと色ムラの原因になります。



3) 媒染 ぼいせん

60～80℃くらいに温めた媒染液に約20分間、布を浸しながらかきまぜます。染液が同じでも、媒染剤が違っていると仕上がりの色が違います。



* 媒染剤をつくろう

ここでは二種類の媒染剤の作り方を紹介します。

ムラなくかきまぜると仕上がりがきれいになります。

	つばきぼいせん 椿灰媒染	鉄媒染
媒染剤の作り方	伐採された椿の木を灰になるまで燃やします。灰が冷めたら缶などに入れて保管します。  	古釘・酢・水を同じ重さずつステンレスの鍋に入れて煮ます。液の量が半分になるまで煮詰めます。 
媒染液の作り方	椿灰を少量、さらし（ガーゼ）に包み、お湯の中で揺すって灰の成分を溶かし込みます。	染める物の重量の2%くらいをお湯の中に入れてよく混ぜます。 * 均一にしないとムラになります。
媒染すると…	黄色く発色します。 	緑がかった灰色になります。 

4) 水で洗って陰干し

水ですすいでよく乾かします。

* 染めた布は色落ちしやすいので、必ず水で洗ってください。



布に色をつける最も簡単な方法は、岩石・草花など色が出るものを直接こすりつける方法で、縄文時代から行われていたと考えられています。

今から約2,000年前の弥生時代中期には、染めた布が出土しています（佐賀県吉野ヶ里遺跡）。日本では、染め物の技術は弥生時代には確立していたようです。



夏休み体験学習センター

のぞいてみよう！ 整理室

発掘調査で出てきた土器や木器は、埋蔵文化財センターに運び込まれます。そこで、復元したり、じっくり観察して図面を作ったり、発掘調査の報告書を作るまでの作業を行います。また、博物館などでの展示に備えて、大切に保管することも重要な仕事です。



きれいに洗うことから始まります。模様などが消えてしまうので、細心の注意が必要です。



破片を一つずつ探し出して、元の姿に復元します。

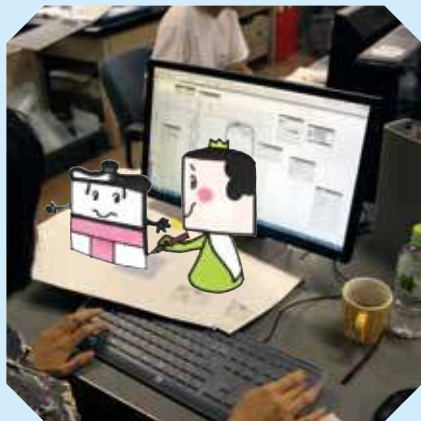


洗い終わった破片には、どこから見つかったかを、小さな文字で記録します。



復元できた土器を実測し、図面を作ります。

展覧会開催中の毎週月曜13時から整理室のバックヤードツアーを開催します。(30分程度・無料・随時受付)



コンピューターを使って、製図します。
同時に、報告書に掲載できるように、編集します。



木製品は、樹脂に
浸けて、変形ないようにします。



写真撮影は大切な作業です。
本格的にライトやカメラを使って、はいポーズ！



報告書執筆中！じゃまをしないでください。



展示などの活用に備えて、大切に保管しています。

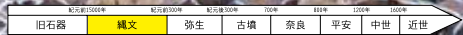


報告書が完成！
私の力作、読んでください。

100年間続いた縄文墓地

あいだにくまはら 相谷熊原遺跡

東近江市永源寺相谷町



相谷熊原遺跡は、滋賀県と三重県の境にそびえる鈴鹿山地のふもとで見つかった、縄文時代（約 13,000 ～ 3,000 年前）の遺跡です。

国内最古（約 13,000 年前）の土偶が出土したことで名が知られましたが、それ以外の大きな成果として、縄文時代の終わり頃（約 3,000 年前）の墓地跡の発見があります。墓地は地面に穴を掘って直接遺体を納めた「土坑墓」と、日常で使用していた深鉢ふかぼちを棺どきかんぼに用いる「土器棺墓」の二種類で構成されており、土坑墓は 50 基ほど、土器棺墓は 30 基が発掘調査によって発見されました。

（整理調査、平成 21 年度発掘調査）



写真1 土器棺墓

土器棺墓とは写真1のように、日常で使っている高さ40cmほどの大きさの深鉢を棺に用いるものです。乳幼児ならば何とか納めることは可能ですが、成人の場合、遺体をそのまま納めるには無理な大きさです。

相谷熊原遺跡では、土器棺墓を壊して土坑墓を作るという事例が見つからなかったことから、この墓地を営んだ人々は、まず土坑墓を作り遺体を葬ったあと、一定時間が経過すると掘り返し、骨などを深鉢に納め直して再度埋葬した可能性があります。もちろん、小さな子供が亡くなったときは土器棺に遺体を納めたこともあったかもしれませんが、基本的に相谷ムラの縄文人たちは遺体を葬り直す「再葬^{さいそう}」という習俗を持っていたと想定しています。



写真2 累々と並ぶ土坑墓（白線部）

発掘調査で見つかった土器棺墓は、検討の結果、列状もしくは環状に配列されていたことがわかりました。

なぜこのような並び方をしていたのかについては不明ですが、血縁関係、あるいは複数のムラの存在を示しているのかもしれませんが。

棺に使用されていた深鉢は、これまでの土器研究の成果に照らすと、およそ100年間にわたって使用されていたものでした。つまり、この墓地跡も約100年間という期間の中で営まれ、そして使われなくなったのです。

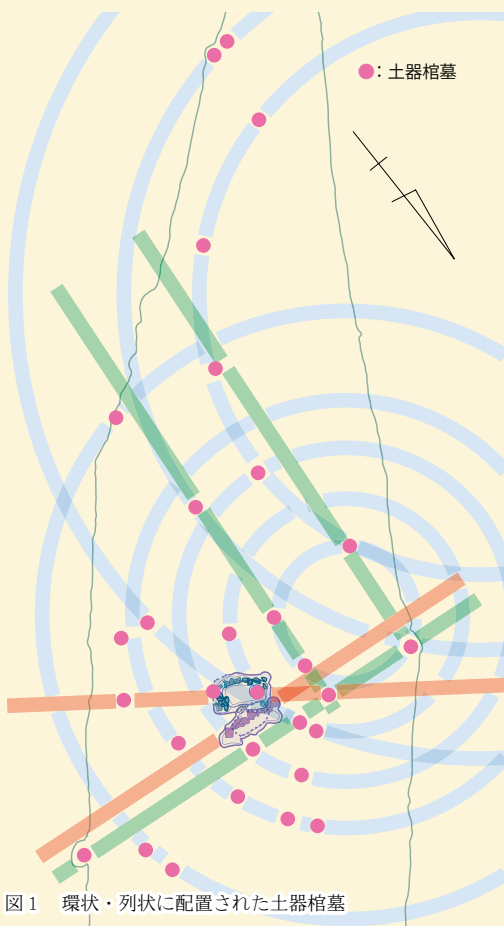


図1 環状・列状に配置された土器棺墓

弥生人、丘に住む！

つつみがたに 堤ヶ谷遺跡

蒲生郡竜王町岡屋

紀元前3000年	紀元前2000年	紀元前1000年	100年	411年	1000年	1600年	
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世

2,000年前の弥生時代、湖東地域の丘陵を造成してムラが営まれました。見晴らしの良い高台、現在では高級住宅のイメージですが、はたして2,000年前はどうだったのでしょうか。

付近の平野とムラの間には、高さで約40mの差があります。当然、日々の農作業などには、この高さを行き来する必要があります。ここにムラを造ったのには、何か特別な理由があったに違いありません。激しさを増す戦乱の影響とも、あるいは、山に依存する生業の存在や、信仰、気象条件などを考えることも必要でしょう。

(発掘調査)



写真1 竪穴住居

見つかった竪穴住居は直径約 10 m と通常に比べて少し大型です (写真 1)。しかし、土器類は、普通の集落と同じです。壺と甕が多く、水や米を蓄え、煮炊きをする。平地で見つかるムラと同じ生活を送っています。また、土器の形や文様も、付近のムラと同じです。

石包丁も出土しています。稲を穂から刈り取る時に使う道具で、平地から離れたムラでも、稲作を行っていたことを示しています。わざわざ、丘陵から降りて農作業を行っていたのです。

注目されるのは「玉作り」です。滋賀県では産出しない緑色凝灰岩を用いて、玉を作っていました。材料となる石材のほか、砥石や、孔をあけるための錐やはずみ車などが出土しています。また、大型の砥石なども出土しており、石斧なども作っていました。特徴的な生産活動とも言えますが、滋賀県の弥生時代遺跡の多くで認められる様子です。

このように、住居や土器、石器などからみれば、決して特殊な生活ではなく、普通の日常生活を過ごしていたのです。なぜ、このような丘陵の斜面にムラを造ったのか。ますます謎が深まってきました。



写真2 調査区からの出土品

琵琶湖とつながる平野のムラ



かねがもりにし 金森西遺跡

守山市金森町

紀元前3000年 紀元前2000年 紀元前1000年 1000年 紀元 1000年 1000年
旧石器 縄文 弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世

金森西遺跡は、これまでの発掘調査で縄文時代から中世に至る各時期の建物跡や溝などの集落にかかわる遺構や、川の跡などが見つかっています。

今回の発掘調査は、16・17頁の大門遺跡と同じく県道建設に伴うもので（金森西遺跡と大門遺跡は近接しています）、古墳時代前期の川の跡・掘立柱建物を中心に、縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層、古墳時代前期以前に起きた地震の痕跡（噴砂跡）、古墳時代前期の土器・玉作りの道具・^{ほったてばしらたてもの}堅櫛といった装身具等の遺物が多数出土しました。

（発掘調査）



写真1 このような川の跡が何本も見つかった



写真2 橋脚の残骸？

発掘調査では、ほぼ全ての調査区から、写真1のような川の跡が見つかりました。幅2～5m程度のもので、なかには杭や先端を尖らせた板を密に打ち込んだ、橋脚ではないかと考えられるものもみつっています（写真2）。川の跡の埋まった土からは古墳時代前期の土器が多量に出土しているほか、農具や杭・板などの木製品、鏡の模造品・有孔円板ゆうこうえんばんや玉砥石たまといしなどの石製品、堅櫛たてぐしといった装身具なども見つかりました（写真3）。

川の跡のほかには掘立柱建物も見つっています。おおむね4m四方の規模で、川の跡から出土した土器と同じ時期の古墳時代前期のものです。また、井戸のように深く掘り下げた坑あなの底からは、赤色の顔料が塗られた木製容器も出土しました（写真4）。さらに下層からは、地震によって液状化現象が起きた

ことを示す噴砂跡や（写真5）、縄文時代後期から晩期にかけての遺物包含層などが見つっています。

金森西遺跡の南には、古墳時代前期の大集落とされている下長遺跡しもなががあります。これまで金森西遺跡は、下長遺跡のような華々しさがあまり感じられない遺跡でしたが、少し考え直さなければならぬかもしれません。



写真4 木製容器は逆さまになって出土



写真3 川の跡から見つかった堅櫛



写真5 砂が吹き上がった様子

大昔の野洲川のあとか？

だいもん 大門遺跡

守山市大門町

紀元前3000年	紀元前2000年	紀元前1000年	100年	1000年	1500年	1800年	2000年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世

守山市の大門町・横江町・三宅町では、平成 22 年度から県道建設に伴い発掘調査を行っており、平成 24 年度は横江遺跡と大門遺跡の調査を実施しました。

今回ご紹介する大門遺跡では、弥生時代から平安時代の川の跡が見つかりました。幅約 300 m ほどの非常に大きな川の跡ですが、現在の野洲川のように、広い川原の一部に水が自由に流れていたようです。色々な時代の川の跡がいくつも見つかりましたが、特に古墳時代前期 (1,600 ~ 1,700 年前) と古墳時代後期～飛鳥時代 (1,460 ~ 1,360 年前) の川の中からは、土器や木製品などの遺物がたくさん出土しました。

(発掘調査)



写真1 古墳時代前期の川の跡



写真2 古墳時代前期の木器

左頁と写真1・2は古墳時代前期の川の跡の様子です。多量の木製品が、おそらくは川に捨てられた状態で出土しました。木製品は用途のわからない板状の製品や棒状の製品が多く、また杭もたくさん出土しました。この中には建築部材を杭や矢板に作りかえたものも見られました。用途が明らかなものでは、こしかけ琴・やじり腰掛・机・武器形木製品（やり刀・やじり槍・やじり剣・やじり鏃）・おりき容器類・織機の部品・ハシゴ・弓などが出土しました。写真2の左上は机の天板の

駄・容器類・杭・板状製品・棒状製品などがあります。特に建築部材や齋串が多く見られました。齋串は先端を尖らせた薄い板状のもので、水辺でのマツリに使われたものです。右頁左上の写真の中央は3m以上ある建物のはり梁、右はたるき垂木です。写真4は須恵器のつぼ壺を取り上げたところです。

先に説明したように、川全体の幅は約300mと広いのですが、それぞれの時期の流れの幅はだいたい10m～20mくらいであったと思われます。また、この広い河川敷のうち、多量に遺物が出土するのは、川の南岸に近い所に水が流れていた跡に限られます。このことから、この川の南岸にはこれらのモノを捨てた人々が住んでいた集落があったのではないかと考えられるのです。



写真3 出土した建物の部品

一部、中央は太い杭、中央下は左に大きなホゾ板材です。

写真3・4は古墳時代後期から飛鳥時代の川の跡の様子です。多量の木製品以外にこちらでは土器もたくさん出土しました。木製品には建築部材・い齋串・くし曲物・まげもの田下



写真4 こんなん出ました！！

「木の文化」で栄えたムラ



えびすだ 蛭子田遺跡

東近江市末村町

紀元前3000年	紀元前2000年	紀元前1000年	100年	411年	1000年	1600年	
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世

今から1,500年前の蛭子田遺跡は、「木こり」のムラとして栄えていました。ムラを流れる川の跡から、山から切り出してきた材木が大量に見つかったのです。中には、流れて行かないように、杭で固定した材木もありました。

また、伐採に使用した斧や、斧を研ぐための砥石も見つかっています。同じ川の跡からは、柱や床などの建物に使われた材木も多く見つかりました。

さらに、馬具や曲げ物容器、機織り道具など、珍しい木製品も多く出土しました。これらは、蛭子田遺跡での日頃の生活に使われたものと考えられます。

(整理調査、平成23年度発掘調査)



写真1 建物部材



写真2 穴のある床板

蛭子田遺跡からは、建物に使われた部材が多く出土しました。これらの建物の部材を詳しく調べることで、これまで明らかではなかった当時の建物の詳しい規模や構造が明らかになってきました。

両端に仕口（ほぞ）を造り出した柱（写真1）や、その柱を立てるための「穴」が開け

られた板（写真2）が出土しました。これらの建物部材が見つかったことから、高床式の建物が存在した^{はり}こと、その床から梁までの高さが約1.5 mであることがわかります。ずいぶん壁の低い建物ですが、今まで知られていなかった1,500年前の真実なのです。



写真3 曲げ物容器



写真4 丸太の出土

1,500年前の曲げ物容器がそのまま出土しました（写真3）。大変珍しい遺物です。薄く作られた底板も側板もヒノキ製で、桜の樹皮で固定する様子など、当時の職人さんの高い技術が見て取れます。

長さ54 cm、幅27 cm、高さ15 cm。いったい、何を入れていたのでしょうか。内部には刃物による切り傷もあるようで、マツリなどで使われた可能性もありそうです。

写真4は山から切り出してきた材木です。加工や運搬に便利のように、枝を払い、適当な大きさの丸太にして運んできたことがわかります。この状態で、川に浸けて保管し、徐々に乾燥させていったのでしょうか。「水に浸けて乾かす」。現在も行われる木材利用の基本的な方法です。適度に乾いたところで製材し、出荷したと考えられています。

湖西最大の祭祀スポット



かみごてん 上御殿遺跡

高島市安曇川町三尾里



上御殿遺跡は高島市南部の河川、鴨川の北岸に広がる遺跡で、継体天皇の出生地と言われている所にほど近い場所です。新しい川を作る工事に伴って平成20年度から発掘調査を行っており、現在も調査は続いています。

これまでに、古墳時代から中世にいたる約1,000年間流れていた川の跡と、そのほとりに営まれた集落や墓の跡などが見つかっています。とくに古墳時代から平安時代にかけて水辺でのマツリが連綿と行われており、これに関わる遺物が川の中から多量に出土することは注目されます。

(発掘調査)



写真1 掘立柱建物

写真1は、川のほとりでみつかった奈良時代から平安時代初め頃の建物の跡です。四角い穴が規則正しくなっていますが、これが柱が建っていた跡なのです。柱のならび方から見て建物は倉庫で、しかもたくさんならんで建っていたことが分かりました。

写真2は川の中を調査している様子です。水がわいている中からたくさんのお木が出土しています。木製品には打ち込まれた杭のほか、農具・祭祀具（齋串・人形代・馬形代・陽物形代・扇など）・容器・建築部材などが出土しています。写真4の右の2つは人形代、それ以外は扇の一部で、奈良時代から平安時代初め頃のものです。人形代は全長15cmほどの大きなもので、顔・手・足を形で表現し目鼻や胸・腹を墨で描いています。扇はバラバラになった状態ですが、一枚ずつ文字が書か



写真3 土器を使ったマツリの跡



写真2 川の中から出土する大量の木製品

れています。土器も多量に出土していますが、写真3のようなものがあります。これは川底から出土した奈良時代の須恵器壺ですが、頸から上をわざと打ち欠いています。この壺の周りには人の頭くらいの大きさの石をならべていることから、なんらかのマツリに使ったものと考えられています。また古墳時代の遺物では、多量の土器のほか石鉏（石の腕輪）といった珍しい遺物も出土しました。



写真4 右2点は人形代、残りは扇（一部）

平安時代の大土木工事

しおのこう 塩津港遺跡

長浜市西浅井町塩津浜

紀元前3000年	紀元前300年	紀元後300年	100年	812年	1569年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

古代から近世まで1,000年以上にわたって使われた、琵琶湖最北端の港・塩津港に関わる遺跡です。以前に行った発掘調査では平安時代後期の神社跡が見つかり、5体の神像や約300点の木簡（起請札など）などが出土しています。今回の調査では、その神社跡の南東250mの地点において、地表から約2m下で平安時代後期（12世紀中頃）に琵琶湖岸を埋め立ててつくった「護岸施設」が見つかりました。今回の発見は、平安時代後期に大規模な土木工事によって琵琶湖岸が造り出されたことを示すもので、古代～中世の港の構造を示すものとして注目されます。

（発掘調査）



写真1 琵琶湖と調査地



写真2 石による護岸

埋め立てた土砂の厚さは最大で約 1.5 m あり、埋め立てによって造られた区画は石で護岸されています。造成土には横木や杭列があり、埋め立てた工程を観察することができます。この区画内では縦板組みの井戸や越前焼の埋甕が見つかるほか、造成土からは越前焼の甕や土師器皿・輸入磁器などが出土しています。また、木製品も多くみつかり、中には付札木簡もあります。この木簡には「皇后宮御封米 / 代十石 <栗毛母 馬>」と書かれています。これは、北陸地方に置かれていた封戸から、皇后宮への貢納物として、封米 10 石（約 1.5 トン）の代わりに栗毛の馬 1 頭が納められた、との意味です。

塩津港は、北陸方面の陸路と琵琶湖の水運が結節する港として、長く重要な役割を果たしてきました。『万葉集』に塩津を詠んだ歌

がいくつかあるほか、奈良時代の『続日本紀』や平安時代の『源平盛衰記』などにもその名が見えます。今回見つかった護岸施設は、塩津港の施設の一部と考えられ、また、護岸施設の構築技術はこれまで類例がなく、当時の土木技術の水準を示す新たな事例といえます。



写真4 造成土中の横木と杭列



写真3 井戸

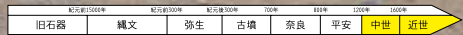


写真5 付札木簡

谷間につくられた中世の村

まっばらない 松原内湖遺跡

彦根市松原町大洞



彦根市の北端部、米原市との境には、松原内湖という琵琶湖の内湖がかつて広がっていました（昭和10年から行われた干拓により、現在は陸地化しています）。松原内湖遺跡は、この旧松原内湖が東隣の佐和山丘陵と接するあたりにあり、これまでの発掘調査で、縄文時代から近代にかけて人々が生活・活動した跡がたくさん見つかっています。今回の発掘調査は、丘陵谷地形の緩斜面で行い、おもに室町時代から江戸時代にかけて（今から約400～200年前）の村の跡が見つかりました。湖辺の村の様子がわかる資料といえます。

（発掘調査）



写真1 周囲に溝を持つ建物の跡



写真2 柱とその下に置かれた木の板

室町時代のもので、建物の柱穴がいくつも見つっています。中には直径約90cmの大きな柱穴もあり、その中には柱の根元部分や柱の下に置かれた木や石の板が残っていました。それらの大きさから考えると、大きな建物だったと考えられます。そのほかに、建物の周りに巡らせた溝なども見つっています。

柱穴や溝からは、食事に使ったお碗や甕かめといった陶磁器、穀物を粉にする石臼いしうす、木を伐る鉄の斧きね、卒塔婆そとばと思われる字を書いた木の板などがみつっています。これらの道具を使っていた当時の人々は、谷の緩い斜面を開墾かんし、畑を耕して暮らしていたと考えられます。

江戸時代になると、出土した茶碗などの生活道具の数は、室町時代頃と比べると少なく

なっているので、この村の人口は減ってしまったようです。当時のものとしては、井戸が2つみつっています。どちらもこのあたりで拾えるチャートという石をおもに使った石組を持つもので、深さは1mと2.5mでした。生活に必要な水を得るために掘られたと考えられます。



写真4 みつかった山茶碗



写真3 木の板だけが残された柱穴もありました



写真5 江戸時代の井戸

琵琶湖に浮かぶ城“膳所城”



膳所城遺跡

大津市丸の内町

紀元前500年	紀元前300年	紀元後300年	100年	812年	1000年	1600年	
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世	近世

膳所城は、関ヶ原合戦に勝利した徳川家康が、豊臣家に関わりが深い西国の大名を押しえるために、慶長^{けいちょう}6年（1601年）に築いた城で、本丸が大きく琵琶湖に張り出した縄張り^{なわぼ}が特徴です。寛文^{かんぶん}2年（1662年）の湖西地域が震源の大地震で大被害をうけ、その後の大改修工事で大きく姿を変えますが、湖水に姿を映す石垣や天守は、琵琶湖を行き来する旅人に名所として親しまれてきました。

明治維新後すぐに建物は解体され、また戦後の湖岸の埋め立てや周辺一帯の市街化で、公園となった本丸跡以外に膳所城の遺構は地表から姿を消したのです。

（発掘調査）



写真1 調査前の様子

左頁の写真は、現在の膳所城本丸跡を近江大橋から見た姿です。本丸では2度の発掘調査が行われており、石垣の一番下の石だけが残っていることがわかっています。写真1は、今回調査をした場所の調査前の様子です。ここは本丸の北側で、絵図によると北の丸のあった場所になります。調査を行ったところ、浅い場所に北の丸の遺構が残されていることがわかりましたが、全体的に城の遺構は削られてしまっていたので、残りはあまりよくありませんでした。

写真3は、北の丸の南端の様子です。手前の少し大きな石は北の丸の南端の石垣で、上下二段に分けて積んでいるようです（写真4）。上段には大きな石が使われており、下から3段目まで残っている部分もありますが底まで石のない部分もあります。下段には小



写真2 瓦を使った土管

さな石材を使っており、底の石の一部がろうじて残っている状態でした。石垣の奥には少し小さな石がならんでいるのを見えますが、どちらも石を積んで作った溝です。写真手前側がずいぶん削られているため、左の溝は途中からなくなっていました。この2つの溝は北の丸の敷地の中を区切るためのものと考えられ、溝にはさまれた所が通路で、溝の両側に建物が建っていたのかもしれませんが、また、この溝につながる土管も見つかりました（写真4）。土管は瓦を使って作られており、建物のある敷地から溝へ水を流すためのものであったのでしょうか。



写真3 北の丸南端の様子



写真4 北の丸南端の石垣

湖上の聖地を掘る！

ちく びしま 名勝史跡竹生島 (つぐ ぶす まいんじんはてん) (都久夫須麻神社拝殿)

長浜市早崎町

紀元前3000年	紀元前300年	紀元後300年	700年	800年	1000年	1600年
旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良	平安	中世 近世

琵琶湖八景のひとつに数えられる竹生島は、琵琶湖の北に浮かぶ全周 2 kmほどの小さな島です。島の周辺は琵琶湖の水深が最も深く、100 m前後の水深があります。

島への信仰は奈良時代頃（約 1,300 年前）から始まったとされていますが、それ以前からも琵琶湖の水運における目印として、船人たちの心の支えになってきたと考えられ、多くの人々の崇敬を集めてきました。

発掘調査は、かわらけ投げで知られる都久夫須麻神社拝殿（龍神拝所）の解体修理に伴って行いました。

(発掘調査)



写真1 調査前の神社拝殿



写真2 礎石をきれいに取り出した様子

発掘調査を行った拝殿は、岬のように島から突き出た斜面上に建てられています。20°～30°の急傾斜で、拝殿の周囲は断崖になっています。地面は石英斑岩せきえいはんがんからなる岩盤ですが、風化が進んでいるので非常に脆い状態になっています。

調査の結果、①現在の拝殿は、岩盤上の柱を据える部分のみ平らに成形して、直接礎石を据えていること、②現在の拝殿よりも古い建物の痕跡は残っていなかったこと、③大正3(1914)年～同4(1915)年に改修工事が行われましたが、その際に礎石部分も含めてかなり手加えられていること、などが明らかとなりました。現在の拝殿は、神社に残る記録から江戸時代中期には現在の規模になったとされていますが、発掘調査によってそれ以前の拝殿の様子がわかることが期待されて

いたのですが、残念ながら謎は謎のまま残ってしまいました。

現在、拝殿は建て直しが進んでいます(今秋竣工)。映画の舞台になることも決まった竹生島へ、一度行かれてはどうでしょうか。

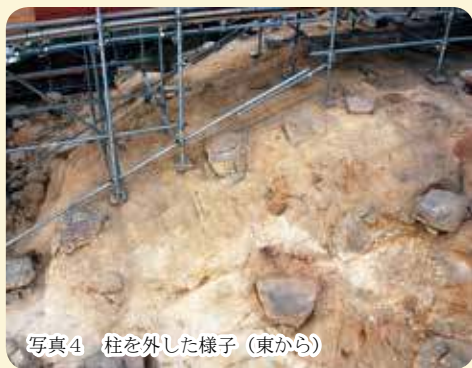


写真4 柱を外した様子(東から)



写真3 記録作業の様子



写真5 同上(西から)

その他の遺跡

① ^{しもはねだ}下羽田遺跡

(東近江市上平木町)

平安時代に行われた水辺のマツリの跡が見つかったほか、マツリに使われた土器も出土。

(整理調査)



② ^{こましやかた}狛氏館遺跡

(東近江市三津屋町)

井戸や溝などを発見、弥生時代や古代・中世の遺物が出土。蒲生野開発の一端が窺える。

(発掘調査)



③ 島遺跡

(近江八幡市北津田)

丘陵谷地形で近世の平坦面や石積・溝などを発見、土師器や陶磁器などが出土。

(発掘調査)



④ ^{あいだにしむら}相谷下村遺跡

(東近江市永源寺町相谷)

中世を中心とする時期の遺構・遺物を発見。

(発掘調査)



⑤ 弘部野南海道遺跡

(高島市今津町上弘部)

飛鳥～奈良時代の溝や土坑などを発見、須恵器や土師器が出土。

(発掘調査)



⑥ ^{ろくたんだ}六反田遺跡

(彦根市宮田町)

縄文時代の貯蔵穴群と土器棺墓群、飛鳥～奈良時代の船着き場を持つ川の跡を発見。

(整理調査)



⑦ ^{さわやまじょう}佐和山城跡

(彦根市佐和山町)

「境目の城」佐和山城跡の初の調査。佐和山東麓で武家屋敷や城下町を発見。

(整理調査)



⑧ ^{つかいわ}塚岩古墳群

(野洲市南樓)

12号墳の調査で、円墳の墳丘や石室の一部を確認、古墳時代後期の須恵器などが出土。

(整理調査)



⑨ ^{ながぼたけ}長畑遺跡

(犬上郡甲良町尼子)

奈良時代～平安時代の竅穴住居や掘立柱建物を発見、豪族居館を含む集落と思われる。

(整理調査)



⑩ ^{なかざわ}中沢遺跡

(草津市西洪川)

古墳時代前期の川の跡や溝などを発見、大量の土師器と木製品が出土。

(整理調査)



⑪ つじ 辻遺跡

古墳時代の須恵器や土師器、中世～近世の陶磁器が出土。

(整理調査)



(栗東市出庭)

⑫ じょうど やしき 浄土屋敷遺跡

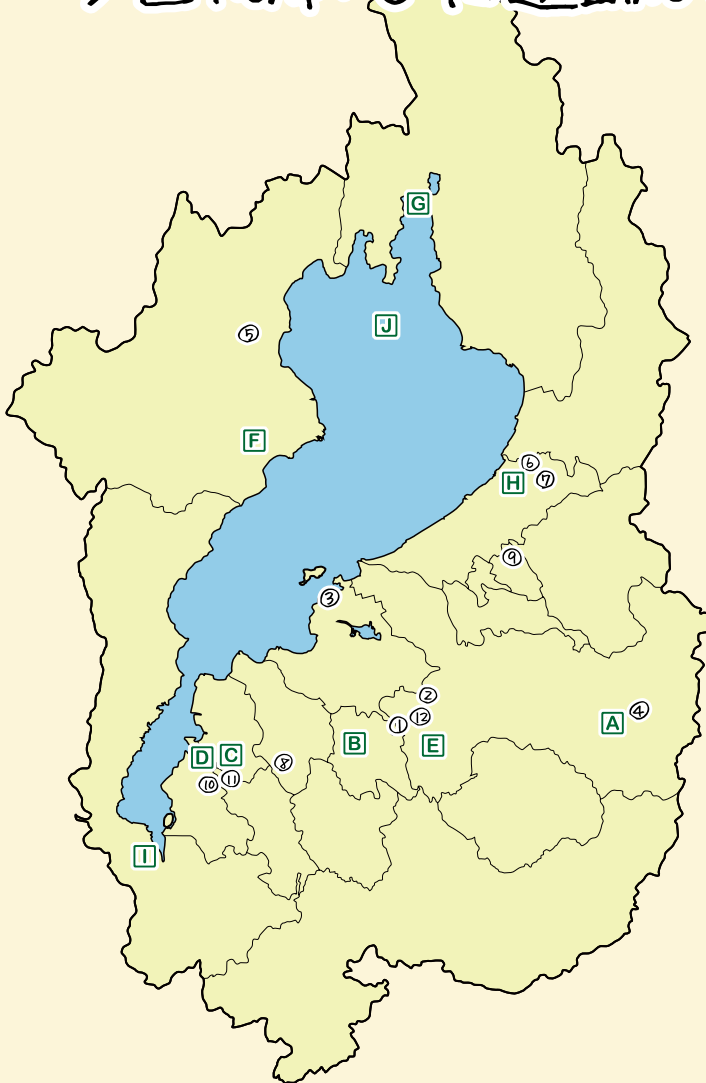
堀や溝で囲まれた中世集落を発見。

(整理調査)

(東近江市上平木町)



今回掲載した遺跡の位置



- A 相谷熊原遺跡
- B 堤ヶ谷遺跡
- C 金森西遺跡
- D 大門遺跡
- E 蛭子田遺跡
- F 上御殿遺跡
- G 塩津港遺跡
- H 松原内湖遺跡
- I 膳所城跡
- J 史跡名勝竹生島
(都久夫須麻神社拝殿)
- ①～⑩ 左ページ
- ⑪・⑫ このページ上

期間中の無料イベント

バックヤード 見学ツアー

実施日時
毎週月曜 13時～

随時案内
(受付にお申し出ください)

火起こし体験

火・水・木・金
13:00～17:00
*
土・日
9:00～17:00

質問受付



受付時間 随時

むかしのことについてご質問の方
はどうぞお気軽にお問い合せ
くださいませ。

古代の服を 着てみよう☆

月～日
9:00～17:00

ご自由に着用・撮影
していただけます☆